

## 「入院患者における転倒転落の発生に及ぼす多剤併用療法との関連に関する単施設後ろ向き観察研究」について

研究責任者：東京大学医科学研究所附属病院薬剤部 百 賢二

患者様の診療情報を使わせていただき、標記の研究を行っています。

診療情報が本研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありませんのでご安心下さい。

### <対象>

下記に該当する患者様における診療で使用された情報（病院で管理している診療録に記載されている内容）を利用させていただきます。本研究による患者様への利益および不利益はありません。

1. 東京大学医科学研究所附属病院に過去に入院された患者さんのうち、転倒・転落した方
2. 東京大学医科学研究所附属病院に 2017 年 11 月から 2018 年 4 月までに入院された方

### <研究の背景・目的>

高齢者における転倒転落は、骨折、頭部外傷のリスクとなり、重篤な症状を呈することも少なくありません。過去の報告によると、転倒・転落する患者さんは、高齢者の、10～25%とされており、高齢者であればあるほどその発生率が高いこと、また女性において高い傾向があることが知られています。

これまで、転倒転落しやすい方としては、寝つきをよくする薬を飲んでいる方などであると報告されていますが、他の種類の薬を服用している場合や、多くの薬を服用している方においては、さらに転倒転落しやすい可能性も考えられますが、詳細は不明です。

そこで本研究では、入院患者を対象として、転倒・転落の発生におよぼす影響について調べたいと考えています。

### <調査項目および個人情報に対する配慮>

調査項目は、上述の<対象>の方々の診療録から収集します。皆さまへの負担などは一切ありません。収集する情報は、年齢、性別、体重、服用している薬の内容、検査値、病名などであり、個人情報は収集しません。得られた情報は、東京大学医科学研究所附属病院の薬剤部内の部門端末（電子データ）および鍵のかかるロッカー（紙媒体）の中に保管し、情報の漏出等がないようにいたします。得られた結果は、個人の情報が分からないようにして、学会や論文として発表いたします。また、情報の解析のために個人情報を削除した情報を院外に持ち出し、発表、作業を行う可能性もあります。本研究は、当院倫理委員会の承認を得たうえで実施しております。

また、将来、現段階では想定されない別の研究において今回の研究において収集された情報が利用される可能性があります。その際には、再度、当院倫理委員会に申請し、審議の上、承認された場合にのみ利用します。

なお、研究成果の検証可能性を確保するために、「東京大学医科学研究所生命科学系研究データ保存のガイドライン」に則り、研究成果発表後、データを長期間保存させていただくことをご了承下さい。

#### <研究の意義>

本研究では転倒転落に伴う骨折や頭部外傷などの要因について明らかにします。この研究により、転倒転落しやすい方の特徴が分かれば、転倒転落に伴う危険性が回避できるようになるものと考えます。

#### <研究期間>

2018年5月18日～2019年4月30日

#### <利益相反について>

本研究は、企業からの委託、特定の企業医薬品等に関する研究ではありません。研究者は、特定の企業から本研究に関する資金の援助を受けておりません。研究の公表に関して、企業等からの制限をうけて実施するものではありません。

#### <対象となることを拒否される場合の連絡先（平日9時～17時）>

研究責任者： 薬剤部 百 賢二

研究分担者： 薬剤部 安 武夫

連絡先)： 東京大学医科学研究所附属病院薬剤部 03-5449-5353